

令和元年度 上半期

福井県立病院経営改革プラン  
実績評価書

令和2年1月

福井県立病院 経営評価委員会

福井県立病院経営評価委員会は、福井県立病院経営改革プラン（以下、「改革プラン」という。）の平成30年度進捗状況について、検証・評価を実施した。

評価に当たっては、改革プランに掲げる重点事項46項目（小項目15、細項目31）および数値目標14項目について、福井県立病院が行った自己評価をもとに4段階評価を行った。

【4段階評価】

評価	評価基準
S	計画、数値目標を大きく上回った。
A	計画、数値目標をほぼ達成した。
B	計画、数値目標をやや下回った。
C	計画、数値目標を大きく下回った。

<全体評価>

大項目「高水準の急性期医療を担う基幹病院としての役割」について、県立病院は、都道府県がん診療拠点病院であること、救命救急センターが充実していること、総合周産期医療の拠点となっていることが、強みと言える。99%を超える救急の応需率は素晴らしいが、さらに救急車搬送件数を増やしていただきたい。新専門医制度による専攻医の確保について、7つの診療科で基幹施設として専攻医を募集しており、評価できる。入退院支援スタッフ、認定看護師等については、増員を図っていただきたい。

大項目「収支を改善し単年度収支を黒字化」については、DPC機能評価係数Ⅱが全国でも上位に位置する大変高い水準となっている。さらに手術件数を伸ばしていただきたい。一方、診療材料については、定期的に見直しを行い、材料費の節減を図っていただきたい。また、業務の効率化に資するAIの活用が望まれる。

大項目「県民に選ばれる病院づくり」については、接遇向上のための研修会の実施や、患者への良質で安全な医療の提供と職員の安全を守るための医療安全水準の向上に積極的に取り組んでいる。トイレなど施設管理をしっかり行い、今後とも県民に信頼される病院であるよう取り組んでいただきたい。

○ 重点事項

改革プラン重点事項			委員会	委員会意見
(大)	(中)	小項目	評価	
1. 高水準の急性期医療を担う基幹病院としての役割				
		〔1〕 質の高い医療の提供		
		(1) 基幹病院として取り組むべき医療の充実	A	救急車搬送件数の増加を図っていただきたい。 分娩件数の増加を図っていただきたい。 自治体病院として教育も重要である。 入退院スタッフの充足を図っていただきたい。
		(2) 高度な医療技術の積極的な導入	A	—
		(3) 手厚い医療の提供	A	支援が必要な患者に対して、十分関与していただきたい。
		(4) 医療機器や設備の計画的な導入	A	—
		〔2〕 全国トップレベルのがん治療の提供		
		(1) 全国トップレベルのがん治療の提供	A	陽子線治療の保険適用拡大をさらにPRしていただきたい。
		〔3〕 人材の育成・確保		
		(1) スタッフの確保・定着促進と資質向上	A	新専門医制度による専攻医の確保について、7つの診療科で基幹施設として専攻医を募集しており、評価できる。 認定看護師等の更なる育成に努めていただきたい。

2 収支を改善し単年度経常収支を黒字化			
〔1〕収益の確保			
	(1) 新規患者の増加	A	—
	(2) 診療単価の向上	A	手術件数をもっと増やしていただきたい。
	(3) データ分析に基づく経営改善	A	DPC機能評価係数Ⅱが高く、評価できる。
	(4) 診療報酬請求業務の水準向上	A	—
	(5) 外部評価の実施	A	—
〔2〕経費の抑制			
	(1) 個別経費の節減	A	診療材料を定期的に見直し、材料費の節減を図っていただきたい。 業務の効率化に資するAIの活用を検討していただきたい。
3 県民に選ばれる病院づくり			
〔1〕信頼性の向上			
	(1) 患者構成の高齢化に対応した体制整備	A	入退院支援の更なる強化に努めてほしい。
	(2) 患者が安心と満足を得られる院内環境と接遇	A	トイレを清潔にしていきたい。
	(3) 県民への情報発信	A	緩和ケアチームが、多職種で他病院を訪問し、意見交換をしている取組みは評価できる。

福井県立病院経営評価委員会委員一覧

区分	氏名	所属団体・役職等
委員長	金岡 祐次	大垣市民病院 病院長
委員	池端 幸彦	(一社) 福井県医師会長
〃	和田 頼知	公営企業等経営アドバイザー
〃	大久保清子	福井県立大学 理事
〃	畑 秀雄	全国健康保険協会福井支部長
〃	水上 登平	福糖会(福井県立病院糖尿病患者の会) 会長

(敬称略)

福井県立病院経営評価委員会開催経過

開催日	議題
令和 元年 8月28日(水)	・経営改革プランの平成30年度進捗状況評価について
令和 元年12月18日(水)	・経営改革プランの令和元年度上半期進捗状況評価について

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項）

【元年度上半期評価】

改革プラン重点事項			元年度計画	元年度上半期計画の進捗状況	委員会 評価
大項目	中項目	小項目			
1 高水準の急性期医療を担う基幹病院としての役割					
〔1〕質の高い医療の提供					
(1) 基幹病院として取り組むべき医療の充実					A
	①	血管に関わる総合的な治療を行う脳心臓血管センターの整備	<p>[中央医療センター]</p> <p>1. 脳心臓血管センター（循環器内科・心臓血管外科・脳神経外科）のさらなる患者増を図る。</p>	<p>1. 循環器内科および心臓血管外科の病室を、11北・11南病棟に集約し、術後の入院治療の連携強化（9月～）</p> <p>（新入院患者数 942人／上半期 前年同期比 +4%）</p>	A
	②	ICUの体制強化等、県下随一の三次救急医療機関として救急医療・集中治療の充実	<p>[中央医療センター]</p> <p>1. 集中治療室（ICU）への医師の複数配置と臨床工学技士の24時間常時配置を実施し、患者の急変時や緊急治療に迅速に対応する。</p> <p>[救命救急センター]</p> <p>1. 県下随一の三次救急として、24時間救急患者を円滑に受入れる。</p> <p>（救急車搬送件数 4,300件／年） （救急からの新入院患者 5,200人／年）</p> <p>2. 救急救命士育成のため、実習指導を計画的に受け入れる。</p>	<p>1. 臨床工学技士の増員を行い、24時間常時院内勤務体制を整備令和元年6月より、特定集中治療室管理料2を算定開始透析は、患者急変に備えて、365日24時間対応できる体制を整備</p> <p>1. 救急患者は断らないを徹底各診療科とも連携して適切な入院治療を実施 （救急車搬送件数 2,067件 前年同期比 ▲13%） （救急からの新入院患者 2,680人 " +3%）</p> <p>2. 消防機関との連携強化、救急救命士の医療技術向上のため、救急救命士の病院実習を受入れ （救急救命士就業前研修 14人） （ " 再研修 22人） （気管挿管実習 3人（1人あたり約3か月間））</p>	A
	③	総合周産期母子医療センター機能の着実な推進	<p>[母子医療センター]</p> <p>1. 高度・専門的な周産期医療の提供のため、NICU、GCUの効率的な運用を図る。</p> <p>2. 県内周産期医療の充実および信頼性の向上を図るため、症例検討会を定期的開催する。 （5回／年）</p>	<p>1. 総合周産期母子医療センターとして、主に通常分娩を担う他施設と連携をとりながら円滑に児を受入れ （超低出生体重児の治療 1件 前年同期比 ▲2件） （極低出生体重児の治療 6件 " ±0件） （開胸・頭・腹の手術 8件 " +4件）</p> <p>2. 県内の各母子医療センター、各職種のスタッフが参加する症例検討会を開催 （2回／上半期）</p>	A

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項） 【元年度上半期評価】

改革プラン重点事項			細項目	元年度計画	元年度上半期計画の進捗状況	委員会 評価
大項目	中項目	小項目				
		④	こころの医療センター急性期部門の強化による早期社会復帰の促進	<p>〔こころの医療センター〕</p> <p>1. 30年1月に設置した精神科救急・合併症病棟と既存の精神科救急病棟および精神科一般2病棟（重度難治性、地域包括支援）を有効に活用・連携し、入院患者を確保する。</p> <p>(新入院患者数 450人/年)</p> <p>2. 患者の早期の社会復帰を推進するため、退院前訪問の実施により早期退院を促進する。 また、退院後の訪問看護も充実させ、患者の社会的自立を促進する。</p>	<p>1. 3次救命救急センター併設の有床総合病院精神科の特性を活かし、緊急・重症な精神政策医療への重点化および採算性の向上を推進</p> <p>(新入院患者 216人 前年同期比 ▲11人) (入院稼働額 664百万円 前年同期比 ▲1.3%)</p> <p>2. 退院前訪問および退院後の訪問看護を積極的に実施 患者の早期社会復帰を目指し、平均在院日数が短縮、早期退院を実現</p> <p>(訪問看護 1,585件 前年同期比 ▲175件) (平均在院日数 111.6日 " 1.4日短縮)</p>	A
		⑤	高水準の急性期入院治療への重点化、回復期以降を担う医療機関との連携強化	<p>〔中央医療センター〕</p> <p>1. 外来診療の対象を連携医からの紹介患者、救急からの患者に重点化するとともに、急性期後の患者の回復期以降を担う医療機関への転院を促進する。 (紹介率 78%、逆紹介率 120%)</p> <p>2. 将来の医療需要に合わせ、一般病床を適切な数へ削減する。</p> <p>〔地域医療連携推進室〕</p> <p>1. 地域の医師、訪問看護師、介護支援専門員および院内スタッフが参加する地域医療・看護・介護連携交流会を開催し、症例検討を通して連携強化を図る。(年1回)</p> <p>2. 円滑な入退院支援の促進を目的に、福井市および坂井地区の地域包括支援センターや居宅支援事業所等との研修会等を開催し、連携の課題を明確にし解決策を見出す。 (年2回)</p>	<p>1. 紹介件数や逆紹介件数の実績を参考に、院長・副院長等の連携医訪問を実施 各診療科長は、紹介症例や逆紹介症例を通して連携医と意見交換を積極的に行い、患者紹介を働きかけ (紹介率 77.2%、逆紹介率 117.0%)</p> <p>2. 9月に病棟再編・病床削減を行い、1病棟を閉鎖 (▲63床)</p> <p>1. 病棟看護師と退院支援看護師の協働による症例検討会を開催し、在宅支援者との連携強化を図り円滑な退院支援を強化 10月23日(水)開催予定</p> <p>2. 坂井地区 9月13日(金) 居宅支援事業所対象 70名参加 ・高度急性期病院である当院の役割および退院支援の連携ポイントや課題等を共有</p> <p>福井市 12月18日(水)開催予定</p>	A

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項）

【元年度上半期評価】

改革プラン重点事項			細項目	元年度計画	元年度上半期計画の進捗状況	委員会 評価
大項目	中項目	小項目				
			⑥ 県内において不足している医療分野への人的支援	<p>〔地域医療連携推進室〕</p> <p>1. へき地医療支援病院として、へき地診療所への代診医の派遣等を充実する。</p> <p>2. 地域医療を確保するうえで、一時的に医師の派遣を必要とする医療機関への医師派遣を充実する。</p>	<p>1. へき地診療所からの代診医や診療支援のための派遣要請全件に対し、医師を派遣 (派遣実績 2診療所 4件 診療101人)</p> <p>2. 地域医療連携医がいる医療連携からの代診医派遣要請全件に対し、医師を派遣 (派遣実績 1医療機関 3件 診療81人)</p> <p>呼吸器内科医師が不足している嶺南地域の診療支援のため、派遣要請を受けて毎週定期的に医師1名を派遣 (派遣実績 敦賀医療センター 毎週金曜日9～12時 呼吸器内科主任医長1名 22回派遣)</p>	A
			⑦ 非常時に備えた医療機能の提供	<p>〔救命救急センター〕</p> <p>1. 災害発生時に現地へ出向き、救命措置や診療支援を行う。 (DMATチームを3チーム編成)</p> <p>2. 緊急時医療対策施設における被ばく患者に対する除染等を行う体制の確認訓練を実施する。 (年1回)</p> <p>〔放射線室〕</p> <p>1. 原子力災害拠点病院として、原子力災害時の専門的知識および技能を有する技師を育成する。</p> <p>〔医療安全管理室（感染制御班）〕</p> <p>1. 社会的影響が懸念される感染症の流行に備えた研修等を実施する。</p> <p>〔全体〕</p> <p>1. 事業継続計画（BCP）を作成する。</p>	<p>1. DMATチームが、県総合防災訓練（県内）等に参加し、実際の出勤を想定した訓練を実施予定 中部ブロックDMAT実動訓練 台風19号のため中止 県総合防災訓練 11月1日～2日（金・土）予定 国民保護共同図上訓練 1月28日（火）予定</p> <p>2. 病院独自に、県防災ヘリ、原子力事業者も参加する被ばく医療訓練を行い、患者受け入れ、除染、初期治療を実施（9月14日）</p> <p>1. 上記訓練のほか、放射線医学総合研究所主催の「原子力災害時医療中核人材研修」等の専門的な研修会にも参加 (参加回数5回、延人数20名)</p> <p>1. 新型インフルエンザ患者が発生した想定で、県健康福祉センターと合同による患者受け入れシミュレーションを実施予定 (R2月3月予定)</p> <p>1. BCPの実効性を高めるため、年1回以上の頻度で見直し (10月26日 院内防災訓練実施)</p>	A

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項）

【元年度上半期評価】

改革プラン重点事項			元年度計画	元年度上半期計画の進捗状況	委員会評価
大項目	中項目	小項目			
			(2) 高度な医療技術の積極的な導入		A
		①	<p>内視鏡・腹腔鏡・胸腔鏡・カテーテル等を用いた高度な手術・治療の実施</p> <p>[がん医療センター]</p> <p>1. 胃がん、大腸がん等に対する腹腔鏡・内視鏡や、肺がんに対する胸腔鏡などを用いた、患者の身体的負荷が小さい鏡視下治療・手術を積極的に採用する。 (実施割合 88%)</p> <p>[中央医療センター]</p> <p>1. 外科手術とカテーテルにおける血管内治療を同時に施行できるハイブリッド手術室を整備する。</p>	<p>1. 主要4部位（胃・大腸・肺・肝）の手術274件のうち、腹腔鏡・胸腔鏡・内視鏡・ラジオ波手術で247件を実施 今後も患者の身体的負荷が小さい鏡視下治療・手術を積極的に採用 (実施割合 90.1%)</p> <p>1. ハイブリッド手術室の運用を、30年4月から開始 (手術件数 86件/上半期 前年同期比 +8%)</p>	A
			(3) 手厚い医療の提供		A
		①	<p>看護体制の強化</p> <p>(看護部)</p> <p>1. 病棟再編に伴う体制づくりを行う。 (新たな病棟の特殊性にあわせた体制整備およびスタッフの再配置)</p> <p>2. 迅速に入院患者を受け入れるための病床管理方法を検討・実施する。</p> <p>3. 患者が安心して治療を受け、早期に退院し在宅療養ができるよう体制を強化する。</p>	<p>1. 再編に係る病棟での勉強会や研修会を実施 (7南、7北、9北、11南、11北)</p> <p>8月 7南病棟（小児入院医療管理加算2→加算4へ変更）の運用変更に伴い、スタッフを再配置 9月 1病棟閉鎖に伴い、再配置</p> <p>2. ベットコントロールマニュアルを見直し、24時間ルール（一般病棟のキープベッドは24時間未満）の徹底を周知</p> <p>電子カルテ内の空床検索管理機能、ベットマップを利用した空床状況の確認と申し送りを実施 師長会議・師長ミーティングで迅速な入院受入れを促進</p> <p>3. 病棟看護師による退院前訪問を実施 (12件/上半期) 看護外来の充実 (指導件数 1263件/上半期 前年同期比+5%) 特定行為研修終了者の育成・活用 (特定行為研修終了者 1名(創傷処置、創部ドレーン、栄養管理および水分管理) 認知症患者ケアの質の向上のため、病棟に複数の認知症研修受講者を配置 (認知症研修受講者 上半期 5名/上半期受講) 累計122名 受講済み</p>	A

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項）

【元年度上半期評価】

改革プラン重点事項			元年度計画	元年度上半期計画の進捗状況	委員会 評価
大項目	中項目	小項目			
			4. 重症度、医療・看護必要度データを効率的かつ正確に測定する。  5. ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、職場環境の改善を進める。  6. 退院支援を強化する。  7. 優秀な人材を確保する	4. リハビリ職員も参加し、研修会を実施（6回/年） 重症度、医療・看護必要度データを適切に入力するため、入力方法を変更（A C項目評価は経過表へ入力、B項目はテンプレート入力） 経過表と医事オーダーと用い、データ精度を管理（監査の結果、不一致割合は1%未満であり、正確に測定できている）  5. 超過勤務時間の削減（3.5時間/一人あたり 前年度比 ▲0.1時間） 育児短時間勤務、部分休業導入に向け、他施設の状況を照会。院内の対象職員にアンケート調査を実施 ワークライフバランス通信（第7号）を発行  6. 院内職員の入院支援に関する意識向上、関連部署との連携強化を目的に院内研修会を開催（6月10日） （内容：退院後訪問を行った病棟看護師による報告 退院支援看護師によるの活動報告 介護支援連携指導・退院時共同指導等の説明）  7. 就職説明会、学校訪問を実施 ナースセンター、新聞、ハローワークでの求人を実施 看護部パンフレットの刷新を検討中 ホームページのリニューアルを随時実施	
		②	[リハビリテーション室] 1. 急性期患者に対し、休日も途切れることなくリハビリテーションを提供する体制を整備し、入院患者の身体的機能回復を支援する。  2. 30年度診療報酬改定で新規に設定された「集中治療室早期離床リハビリテーション加算」に対応し、早期の社会復帰を支援する。	1. 理学療法士1名、作業療法士2名の産休代替職員を確保 新たに心臓リハビリテーション指導士資格取得（2名） → 365日実施体制を提供（実施件数 53,349件/上半期 前年同期比+0.2%）  2. 早期離床加算算定数 454件 （ICU入院数に対する算定率 27.9%）	A
		③	[薬剤部] 1. 薬剤師を各病棟に配置し、持参薬の照合や患者個々の症状変化に応じた処方、副作用の有無の確認等、きめ細やかな服薬指導を実施するための体制を整備する。	1. 薬剤管理指導件数 4,800件 前年同期比 +16%	

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項）

【元年度上半期評価】

改革プラン重点事項			元年度計画	元年度上半期計画の進捗状況	委員会 評価
大項目	中項目	小項目			
			1. 入院患者の症状変化に密接に関わり、患者の安全な身体機能回復を支援するため、専門知識を持つ認定薬剤師を育成する。	1. 日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師を取得（2名）	
			(4) 医療機器や設備の計画的な導入		A
		①	将来の高度医療の実施に対応できる機器・設備の導入	1. ハイブリッド手術室の運用を、30年4月から開始 (手術件数 86件/上半期 前年同期比 +8%) 【再掲】	A
			[中央医療センター]		
			1. 30年3月に完成した外科手術とカテーテルによる血管内治療を同時に施行できるハイブリッド手術室を利用し、高度な医療を提供する。		
			[2] 全国トップレベルのがん治		
			(1) 全国トップレベルのがん治療の提供		A
		①	がん医療センターの機能を生かした集学的治療の推進	1. 主要4部位（胃・大腸・肺・肝）の手術274件のうち、腹腔鏡・胸腔鏡・内視鏡・ラジオ波手術で247件を実施 今後も患者の身体的負荷が小さい鏡視下治療・手術を積極的に採用 (実施割合 90.1%) 【再掲】	
			[がん医療センター]		
			1. 胃がん、大腸がん等に対する腹腔鏡・内視鏡や、肺がんに対する胸腔鏡などを用いた、患者の身体的負荷が小さい鏡視下治療・手術を積極的に採用する。【再掲】	2. 高精度放射線治療を推進しており、30年度より倍増 今後も積極的に高精度放射線治療を推進  (治療患者数 148人/上半期) (うち、IMRT等による治療 64人/R元上半期 前年度比+88%)	A
			2. 最新型の放射線治療機器（リニアック）を導入し、患者の身体的負を軽減するため治療時間を短縮する治療を積極的に採り入れ、高精度の放射線治療を行う。 (治療患者数 280人/年)	3. 外来化学療法患者数 2,403件/上半期	
			3. 外来化学療法室において、患者の生活の質に配慮した副作用の少ない抗がん剤治療を実施する。		
		②	チーム力を結集したがん治療	1. 毎週月・水・金に、多様な診療科の医師、看護師、薬剤師、放射線技師等各種職が一堂に会し、最善の治療方法を議論	
			[がん医療センター]		
			1. 胃、大腸、肺、肝、乳、子宮の各部位ごとに、複数の診療科医師によるチーム医療を実施し、多職種でがん症例の検討を行うがん診療連携協議会を週3回開催する。	2. 緩和ケアセンターのがん看護専門看護師、がん性疼痛看護認定看護師ら専従看護師を中心に、がん相談支援センターと連携し緩和ケアに関する高次の相談支援を行うなど、積極的に活動 (相談件数 697件/上半期)	A
			2. 緩和ケアセンターを拠点に、専門の看護師等による患者からの苦痛緩和等の相談体制を充実する。 (相談件数 1,360件/年)		

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項）

【元年度上半期評価】

改革プラン重点事項			細項目	元年度計画	元年度上半期計画の進捗状況	委員会 評価
大項目	中項目	小項目				
			③ 陽子線がん治療の利用促進と研究推進	<p>[陽子線がん治療センター]</p> <p>1. 他医療機関からの紹介患者を確保するため、県内、石川県、富山県を中心に病院間ネットワークを構築し、普及啓発を行う。 併せて、両県民に対するPR活動も強化する。</p> <p>(陽子線治療患者数 180人/年)</p> <p>2. 他医療機関の多くの診療科の医師に陽子線治療を知ってもらうため、勉強会を開催し、実際の症例等を用いて説明し患者紹介を働きかける。</p> <p>3. 陽子線治療における他施設との共同研究を推進する。</p>	<p>1. 北陸三県（富山、石川、福井）を中心に普及啓発活動を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民公開講座（富山、福井）（参加者計275人） （金沢 12月開催予定）</li> <li>・出前講座（北陸地域の生命保険会社等）（6件）</li> <li>・医療機関等への営業 福井県内、石川県を中心に医療機関等を訪問し、公的医療保険の適応拡大をPR、患者紹介と説明会開催を依頼（32件）</li> <li>・メディアへの記事掲載の働きかけ（新聞等への記事掲載3件）</li> </ul> <p>(陽子線治療患者数 87人 前年同期比 +2%)</p> <p>2. 他医療機関にて、医局会等の時間を利用した勉強会を開催 金沢大学医学部附属病院、国立病院機構敦賀医療センター 公立小浜病院、公立松任病院、厚生連高岡病院、城北病院、石川県立中央病院</p> <p>3. 治療の高度化のため、福井大学、金沢大学と共同研究を実施 日立製作所、北海道大学と、診断システムの共同研究を開始</p>	B
[3] 人材の育成・確保						
			(1) スタッフの確保・定着促進と資質向上			A
			① 優秀な医師の採用と定着	<p>[経営管理課]</p> <p>1. 医学生に対する募集広報を推進し、令和2年度採用に向けた初期研修医を確保する。</p> <p>2. 新専門医制度による専攻医の確保について適切に対応する。</p>	<p>1. 研修医マッチング（1次募集）では、4名がマッチング成立</p> <p>2. 内科、小児科、外科、産婦人科、麻酔科、放射線科、精神科、救急科の7診療科が基幹施設として専攻医を募集</p>	A
			② 専門資格の取得	<p>[看護部]</p> <p>1. 認定看護師等を育成する。</p> <p>[薬剤部]</p> <p>1. がん専門薬剤師等の資格取得を推進する。</p>	<p>1. 糖尿病看護、がん化学療法看護認定看護師 各1名が資格取得 累計 認定看護師 17分野27名 専門看護師 4名 がん看護専門看護師の資格取得に向け、1名が研修中 特定行為研修終了者 1名、受講予定者 1名</p> <p>1. がん専門薬剤師の受験資格を満了した職員1名が資格取得予定</p>	A

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項）

【元年度上半期評価】

改革プラン重点事項			元年度計画	元年度上半期計画の進捗状況	委員会 評価
大項目	中項目	小項目			
2 収支を改善し単年度経常収支を黒字化					
〔1〕収益の確保					
(1) 新規患者の増加					A
① 地域医療支援病院として連携医からの新規紹介患者の確保			<p>〔地域医療連携推進室〕</p> <p>1. 地域連携医からの患者紹介等の申し出に迅速に対応する。 平成28年8月から開始した土曜日午前中の予約受付を継続して実施する。 今年度は、「ふくいメディカルネット」による情報開示を土曜日午前中にも行う。</p> <p>2. 副院長（地域医療連携室長）をリーダーとした「患者獲得ワーキングチーム」で、紹介患者獲得に向けた方策を検討、実施する。</p> <p>3. 地域連携医を対象に研修会・講演会を開催し、当院が実施している医療技術や治療実績をPRし、紹介患者の獲得につなげる。</p>	<p>1. 土曜日の予約受付は、地域連携医に認知されるようになり、予約申込みの他、診療情報の問い合わせ等が増加 予約受付 347件、その他、問い合わせ 222件 (1回当たり H28 11.8件、H29 12.8件、H30 13.1件、R1 13.9件)</p> <p>6月から「ふくいメディカルネット」による情報開示を土曜日午前中にも実施 (メディカルネット開示 20件/上半期)</p> <p>2. 患者獲得ワーキングチームを開催 (1回目 5月20日開催) ・紹介患者を獲得するため、メンバーの診療科医師は連携医療機関への訪問を積極的に実施 ・訪問時には当院紹介冊子を活用 ・紹介患者数を分析し、訪問効果を検証</p> <p>3. 開放型病床カンファレンスを定期的で開催 (5回/上半期)</p>	A
(2) 診療単価の向上					A
① DPC（入院費包括払）制度に則った高水準で高収益となる診療への取り組み			<p>〔診療録管理室〕</p> <p>1. DPCⅡ群昇格をめざし、診療密度（1日当たり包括範囲出来高点数）の向上を図る。</p> <p>2. 入院早期の段階で手厚い治療を実施し、DPC入院期間ⅠとⅡでの退院を促進する。 (入院期間Ⅱ以内の退院率 70%)</p>	<p>1. 平成28年に、DPC特定病院群（旧Ⅱ群）に昇格 31年4月からの機能評価係数Ⅱは、さらに向上し、DPC特定病院群の中で、全国9位 診療録と医事データの整合性の確認を行い、欠落したデータがあれば医療情報システムや運用方法の改善を検討する等、DPCデータの精度向上を促進</p> <p>2. 診療科別にDPC入院期間Ⅱが管理しやすいようカルテのDPC患者一覧の表示項目を変更し、科別・病棟別の達成値を毎月報告 (入院期間Ⅱ以内の退院率 72.4%)</p>	A

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項）

【元年度上半期評価】

改革プラン重点事項			元年度計画	元年度上半期計画の進捗状況	委員会 評価
大項目	中項目	小項目			
			3. 重症患者への救急医療管理加算の算定や入院期間Ⅱ以内の退院率等、DPC係数上昇のための具体的な手法を職員に啓発、指導する。	3. DPC係数の機能評価係数Ⅱ合計について目標値を設定し、各係数の算式を医局会等で周知、係数改善のための具体的取組みを徹底  ・効率性係数 入院期間Ⅱ以内の退院率と効率性係数の相関について医局会等で説明入院期間の適正管理を支援する電子カルテの機能の有効活用（「DPC患者一覧」レイアウト変更）を促進 効率性係数偏差値 56.5 → 59.5  ・効率性・複雑性・カバー率係数 化学療法の予定入院について、一入院一クール化を促進 年間症例数12症例に満たないDPCを周知し、多様な疾患の診療を促進	
		② 体制整備や質の高い医療行為による上位の診療報酬点数の算定	〔経営管理課〕 1. 診療報酬施設基準に定める人員配置等の要件を備えることで、上位の保険点数の算定を可能とし、収益の増を図る。	1. 令和2年度診療報酬改定に対応し、体制整備等を実施予定	A
		③ 病室の個室化	〔経営管理課〕 1. 入院患者の治療環境改善とプライバシーの確保、さらに収益確保のため病室の個室化を推進する	1. 個室の環境をより良いものにするため、床材張り替え等リニューアル工事を準備中	A
		(3) データ分析に基づく経営改善			A
		① 各種経営分析ツールを用いた収支改善策の検討	〔経営管理課、診療録管理室〕 1. DPC分析ソフトを活用し、診療科別・疾患別の問題点および改善ポイントを把握、各診療科にフィードバックし収支改善を図る。	1. DPC分析ソフトを活用した分析結果をもとに、各診療科の医師、病棟師長等と病院幹部職員が参加して「診療科別経営状況等検討会」を開催し、率直な意見交換を実施 DPC運営委員会においても、チーム医療機能のベンチマーク資料を定例報告し、出来高算定の改善を促進	A
			2. 経営コンサルティング等の専門家の支援を得て、収支改善に向けた課題の洗い出し、改善策の検討を行う。	2. 病院経営の専門家に当院DPCデータの分析を依頼 定期的に当院の幹部や経営改善ワーキングメンバーとディスカッションし、データ分析結果の報告や課題の抽出、改善に向けた助言を得ている。 (依頼先) 千葉大学医学部附属病院 副病院長 井上貴裕氏 【主な取組み】 ・入院期間Ⅱ以内での退院促進 退院率（ⅠとⅡの割合）目標値 70% ・特定入院料の算定率向上 ・出来高算定項目の算定率向上 等	A

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項）

【元年度上半期評価】

改革プラン重点事項			元年度計画	元年度上半期計画の進捗状況	委員会評価
大項目	中項目	小項目			
			(4) 診療報酬請求業務の水 準向上		A
		①	<p>医事記録管理や診療報酬請求業務の充実</p> <p>1. 中央医療センター長をリーダーとした「収益確保ワーキングチーム」で、収益確保に向けた方策を検討、実施する。</p> <p>2. 診療報酬請求事務の適正化に向け、職員の資質向上を図る。</p>	<p>1. 医師、看護師、事務局職員で構成するワーキングチームを立ち上げ、収益を確保するための取組みを実施</p> <p>【主な取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟削減、小児病棟の一般病棟との混合化（小児入院医療管理加算2 →加算4へ変更）による病床利用率向上</li> <li>・画像検査、エコー検査回数の適正化</li> <li>・化学療法の一部の入院対応</li> <li>・診療密度の向上（DPC特定病院群の要件） 元年9月末現在 2,550.94 （特定病院群昇格時（H28.10～H29.9） 2,416.76）</li> <li>・入院期間Ⅱ以内での退院率 元年度上半期 72.4%</li> </ul> <p>2. 医師や医事業務を行う職員（委託事務）等のスキルアップを図るため、研修会の開催や具体的かつきめ細やかな指導を実施 （6月12日 研修会 講師：千葉大学医学部附属病院 副病院長 井上貴裕氏）</p> <p>全診療科、看護部、コメディカル、医事事務担当職員（委託事務含む）が参加する診療医事委員会（月1回開催）において、診療報酬請求にかかる減点の原因分析、対策検討を実施 （診療報酬減点率 元年度上半期 0.31%）</p>	A
			(5) 外部評価の実施		A
		①	<p>経営改善に関して定期的に病院外部からの意見を得る評価制度の実施</p> <p>1. 経営改革プランの進捗状況について、定期的に病院外部からの意見を得る評価制度を実施する。</p>	<p>1. 経営評価委員会を開催し、とりまとめた評価書を公表</p> <p>第1回委員会 8月28日 平成30年度実績評価書の公表 10月 第2回委員会 12月18日開催予定 委員からの意見を、今後の取組みに活用</p>	A

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項）

【元年度上半期評価】

改革プラン重点事項			元年度計画	元年度上半期計画の進捗状況	委員会 評価
大項目	中項目	小項目			
			[2] 経費の抑制		
			(1) 個別経費の節減		A
		①	<p>診療材料費の節減</p> <p>〔経営管理課〕</p> <p>1. 「材料費削減ワーキングチーム」で、診療材料費等の削減に向けた方策を検討、実施する。</p> <p>（品目集約および安価品への切替件数 60件/年）</p>	<p>1. ワーキングチーム（構成：医師、手術室看護師長、薬剤部、事務局等）を立ち上げ、各診療科に対し品目の統一や安価品への切替など実施可能なものの検討を依頼</p> <p>提案されたものから順次実施 （安価品への切替 12件/年） 削減額 2,140万円（R元年9月末）</p>	A
		②	<p>薬品費の節減</p> <p>〔経営管理課、薬剤部〕</p> <p>1. 後発医薬品を積極的に採用し、数量ベースでの取扱い割合の向上を図る。 （後発医薬品の使用割合 85%）</p>	<p>1. 後発医薬品の使用状況を調査し、使用量の多いものについて後発医薬品を採用 （後発医薬品の使用割合 88.9%）</p> <p>後発医薬品採用による収支改善効果を検証し、注射薬を中心に採用メリットが大きい医薬品について切替え （H29分 49品目 削減額 3,200万円） （H30分 31品目 削減額 700万円） （R 1分 20品目 削減額 400万円）</p>	A
		③	<p>医療機器の保守点検費用の節減</p> <p>〔経営管理課〕</p> <p>1. 「調達経費削減ワーキングチーム」で、機器購入費や保守経費の削減に向けた方策を検討、実施する。</p> <p>2. 機器購入にあたり必要性・収益性を厳格に審査、評価するしくみを確立し、医療機器の購入・保守経費を抑制する。</p>	<p>1. 医師、検査室、事務局職員で構成するワーキング内でチームを立ち上げ、医療機器の調達や保守・修繕に係る経費の削減に向け、取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機器の共用化 電気メスの複数購入要望に対し、手術室にある総数・使用頻度を調査し、更新の必要性について調査 また、複数診療科による共同利用を協議</li> </ul> <p>2. 器械備品委員会に設けた購入判定部会（病院幹部で構成）において、プレゼンテーションやヒアリングを実施。機器の必要性について厳正に審査</p>	A
		④	<p>給与費の適正管理</p> <p>〔全体〕</p> <p>1. 超過勤務の縮減を図る。</p> <p>（超過勤務時間 医師 △5時間/人・月 （前年度比） 事務 △3時間/人・月 その他 △2時間/人・月）</p>	<p>1. 医師作業事務補助者（クラーク）の増員（医師事務作業補助体制加算1 30対1；6月～）、院内諸会議の開催時間の見直し等、業務負担の軽減推進</p> <p>（超過勤務時間 医師 ±0.0時間/人・月 （前年度比） 事務 △6.1時間/人・月 その他 ±0.0時間/人・月）</p>	B

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項）

【元年度上半期評価】

改革プラン重点事項			元年度計画	元年度上半期計画の進捗状況	委員会 評価
大項目	中項目	小項目			
3			県民に選ばれる病院づくり		
			〔1〕信頼性の向上		
			(1) 患者構成の高齢化に対応した体制整備		A
		①	機動性の高い地域医療連携推進室への体制強化	<p>〔地域医療連携推進室〕</p> <p>1. 地域医療機関からの患者紹介に対し、迅速に対応する。</p> <p>1. 地域医療機関からの患者紹介に対する予約日時等の回答は、受けてから20分以内に行うことを対外的にも明記している。 今年度10月に、回答に要する時間を調査する予定である。</p>	A
			(2) 患者が安心と満足を得られる院内環境と接遇		A
		①	接遇や施設整備の改善	<p>〔全体〕</p> <p>1. 職員の接遇向上や施設整備の改善等を実施し、患者や来院者に対する利便性・快適性を向上する。</p> <p>1. ・患者満足度調査の実施 定期的に、患者の当院への評価・満足度等を把握している。 実施日 外来 7/30、31（2日間） 入院 7/30～8/5（7日間） 回収率 外来 51.1%（719枚） 入院 72.6%（389枚） 結果 総合案内や会計事務員、各科受付事務員のことば遣いや態度、身だしなみなど接遇面の満足度が上昇</p> <p>・接遇研修の実施 7月29日 講師：(株)ブリッジ代表 長谷美左子氏 8月19日 講師：(株)ブリッジ代表 長谷美左子氏 9月12日 講師：オフィス・マインドルージュ 藤田由美子氏 9月17、18日 講師：福岡県済生会福岡総合病院 三原圭子氏</p> <p>・総合受付にコンシェルジュを配置</p> <p>・委託スタッフへの基本行動（接遇）の指導を徹底 実行状況のチェックを実施</p>	A
		②	入院前から在院中・退院後に至るまでの患者サポート体制の充実	<p>〔看護部・地域医療連携推進室〕</p> <p>1. 入院前から退院後まで支援する各スタッフが、入院支援室で得た患者情報を共有し、患者が安心して治療を受け、安心して退院できるようにサポートする。</p> <p>1. 外来看護師が入退院支援室や外来において、入院前の生活やサービス利用状況、入院への不安等を把握し、入院中のスケジュールや退院に向けた支援の説明を行っている。 得た患者情報は医師や看護師・栄養士・薬剤師・リハビリ・退院支援部門等で共有し、患者・家族が安心して治療を受け、退院できるように努めている。 (入院時支援加算は非算定)</p>	

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項）

【元年度上半期評価】

改革プラン重点事項			細項目	元年度計画	元年度上半期計画の進捗状況	委員会 評価
大項目	中項目	小項目				
				2. 退院支援は連携室の業務であるが、病棟との連携強化を図るために入退院支援に関する院内の認識の向上を図る。  3. 地域医療連携推進室と入退院支援室、なんでも相談が連携を密にし、患者からの医療・生活相談に迅速に対応する。 (医療相談件数) 中央C 15,410人/年 ころろC 18,500人/年	2. 「入退院支援部会」(外来・病棟・地域医療連携室)が毎月部会を開催し、活動 院内職員の入退院支援に関する意識向上、関連部署との連携強化を目的に院内研修会を開催 6月20日(木) 参加101名 内容:病棟看護師による退院後訪問に関する報告 連携室の退院支援看護師による活動報告 介護支援連携指導・退院時共同指導等説明  3. 社会福祉士、精神保健福祉士等が対応  (医療相談件数) 中央C 7,578件/上半期 ころろC 10,078件/上半期	A
			③安全管理水準の向上	[医療安全管理室] 1. 院内の安全体制確認を行うラウンド等、多職種で取り組むチーム活動を推進する。 2. インシデント事例の報告や改善策の検討を行うカンファレンスを定期的に開催する。 3. レベル3b以上の重大事例の減少に努める。 (3b以上のインシデント件数 8件以下/年) 4. 患者の転倒転落事故防止のため、患者、家族への説明を徹底する。  5. 医療事故や院内感染の防止に向け、全職員を対象とする研修を実施する。  6. 患者急変時の対応を強化するため、コードブルー体制を整備する。	1. リスクマネージャー約70名が、テーマごとに分かれて事例を分析その分析結果を現場に還元するため、随時、院内を巡回  2. 医療安全カンファレンス(院長以下関係者) 週1回 医療安全管理者による全部署でのカンファレンス 月1回  3. 発生件数が目標を大きく下回っている。 (3b以上のインシデント件数 3件)  4. 患者の自己チェックも踏まえ転倒転落危険度を評価。危険度を患者に説明し、事故防止には患者や家族の協力が必要であることを説明 (危険度評価実施率 100%) (患者への危険度説明実施率 90%)  5. 全職員を対象に、「医療安全・感染防止研修」を実施 (前期日程: 6/3~10 参加率 99.3%) (後期日程: 11月開催予定)  6. コードブルー体制を整備 職員の意識向上が図られ、急変時対応研修への参加者の増加、自主的なシミュレーションを開催する所属があった。 (急変時研修参加者 120名) (自主的シミュレーション実施 精神科外来、東4病棟)	A

福井県立病院経営改革プラン評価シート（重点事項）

【元年度上半期評価】

改革プラン重点事項			元年度計画	元年度上半期計画の進捗状況	委員会 評価
大項目	中項目	小項目			
			7. ペットサイト*で起こりうるコネクタの誤接続を防止するため、誤接続防止コネクタの導入を進める。 8. 医療安全・質向上のため、他院と相互チェックを行う。	7. プロジェクトチームを設け、経腸栄養カラーシリンジ変更に向けて準備  8. 福井赤十字病院と相互チェックを実施 （県立病院受検：9月3日 福井赤十字病院受検：10月1日）	
			(3) 県民への情報発信		A
			①県民や地域医療機関への情報発信力の強化  [全体] 1. 当院の取り組みを広く県民に周知するため、院内の情報収集や効果的な広報の実施体制を整える。  2. 広報誌を発行し、病院に関する情報を院外に発信する。	1. 新聞等への掲載回数 60件 ・ウイルス感染症への注意喚起 ・女性のがんに強い病院ランキング ・ボランティアコンサートの開催 等 地域医療連携医向け病院紹介冊子にて、各診療科のトピックスを紹介  2. 病院広報誌「コンパス」を発行（6月、9月） （特集記事） ・専門医による安全ながん薬物療法（6月） ・こころの医療センター 病院完結型医療から地域包括的医療へ（9月） その他、当院の先進医療、がん医療、チーム医療を紹介	A

福井県立病院経営改革プラン評価シート（数値目標） 【令和元年度上半期実績】

項 目	30年度 上半期実績	元年度 目標値	元年度 上半期実績 (前年度比)	委員会 評価
経常収支比率	—	100.6%	—	—
医業収支比率	117.4%	84.9%	117.7% (+0.3P)	—
給与費率	47.9%	54.5%	46.8% (▲1.1P)	—
新入院患者数（精神科除く一般病棟）	7,023人	14,500人	7,234人 (+3.0%)	A
新入院患者数（精神科）	227人	430人	216人 (▲4.8%)	B
DPC入院期間Ⅱ以内の退院率	71.2%	70%	72.7% (+1.5P)	A
病床利用率（精神科除く一般病棟）	76.4%	(再編後) 85.0%	80.2% (+3.8P)	A
病床利用率（精神科）(保護室除く)	88.4%	90.0%	84.6% (▲3.8P)	B
紹介率	73.9%	78.0%	77.3% (+3.4P)	A
逆紹介率	111.1%	120.0%	120.8% (+9.7P)	S
平均入院単価（一般病棟）	72,432円	73,000円	73,908円 (+2.0%)	A
救急車受入台数	2,367件	4,300件	2,067件 (▲12.7%)	B
手術件数	2,436件	5,000件	2,529件 (+3.8%)	A
分娩件数	255件	530件	262件 (+2.7%)	A